

# 精密切削加工が8割以上 マシニングセンタで付加価値の創造へ

渡辺社長に聞く — ヤマト(長野県・諏訪市) 下諏訪工場訪問 —

## ネプコンジャパン、機械要素技術展に出展、営業的成果を展望



ピビリ音が解消したと語るオペレーターの内藤さん

**「刃物寿命が伸び、工具1本当たりの生産個数が2倍。夜間運転も可能に」  
3直24時間フル稼働の「立役者」**



下諏訪工場の様子

### ビビリ音解消に スーパーG1チャック導入

ヤマトはビデオテクニクが挙げられようか。連の組立て工場として1964年に創業したがその後、部品加工にも乗り出した。2003年入社で、2代目として創業した渡辺高志社長は「今では取引社数おおよそ200社。精密切削加工が8割以上を占め、残りはブラスチタ形成、組み立ての製造を試みてきた。たとえば他社では1工程で対応できなかった加工を、治具で工夫することにより可能にした」といった例を08年に発生したリーマン

ショックが当社の大きな転換点。翌年の売り上げは60%以上が消失した。そのころ、ヤマトの生産拠点は、本社のある上諏訪工場と、歩合の多い下諏訪工場と、2か所から成り、リーマンショックからの脱却として「カム式の機械を処分し、主力の自動盤を上諏訪工場に集約して、下諏訪工場



取材に応じてくれた渡辺社長

**「主力の自動盤を上諏訪工場に集約し、下諏訪工場のスペースを確保、仕事に見合う設備投資実践へ」**

を空にしてスペースを確保。最新の設備導入と仕事の受注が噛み合うような展開を模索していた。仕事の確保では、毎年のように設備投資を行う。方、展示会も積極的に活用し、ネプコンジャパンや機械要素展などに出展、営業的な成果を展望した。マシニングセンタを駆使する下諏訪工場には、オークマイ1台、ブラザー工業3台、滝沢鉄工所4台、静岡鉄工1台など計16台が稼働している。9月には老朽化の更新として、フナツクのプロポドルが導入予定だ。このほか、下諏訪工場には、円筒や平面の研磨機、ホブ盤、ブローチ盤、ワイヤカットなどを設備している。特にマシニングセンタについては、最新鋭に「かわりつづ」機械剛性と回転速度を意識すると言った。「スーパーG1チャックを勧められたのは、お付き合いのある商社の営業マンだと言った。」

リーマンショックが「転換点」、毎年のように設備投資を実施  
— ユキワ精工ユーザーを歩く —



**Super G1 Chuck** YUKIWA ユキワ精工株式会社 <http://g1-chuck.com>  
YouTubeにて動画公開中!!

本社・工場 / 〒947-0052 新潟県小千谷市千谷2600番地1  
TEL.0258-81-1111(代) FAX.0258-81-1112  
営業所 / 東京、名古屋、大阪、中国(上海)、U.S.A.  
URL <http://www.yukiwa.co.jp/>